

福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 6 月 13 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (6/13 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 1.9 m ³ /h	24.0	4.0 kPa g	A系： 0.00 vol%
		給水系：約 2.4 m ³ /h			B系： 0.03 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 2.5 m ³ /h	32.6	7.23 kPa g	A系： 0.05 Vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.05 Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 2.4 m ³ /h	30.6	0.24 kPa g	A系： 0.04 Vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.05 Vol%

電源停止作業に伴いデータ欠測

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (6/13 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	24.0
2号機	循環冷却システム	運転中	23.8
3号機	循環冷却システム	運転中	23.8
4号機	循環冷却システム	運転中	23.2

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘビドランジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	6/9 16:30 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(プロセス主建屋)	6/9 16:50 ~ 移送実施中

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (6/13 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	停止中*1	運転中*1	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

< 5. その他 >

・H26/1/29 ~ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔について、凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。

4/2 ~ 挿入が完了した凍結管について凍結を開始。

4/28 ~ 4/26に全17本の凍結管の挿入作業、そのうち13本のパッカー設置作業が終了したことから、凍結管全17本の凍結運転を開始。今後、1ヶ月程度で凍結の壁を造成していく予定であり(6月頃完了予定)、凍結状況については、測温管にて確認していく。

・H26/3/14 13:35 ~ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。

・H26/6/2 ~ 凍土遮水壁工事を開始。

[地下水バイパス揚水井の状況]

- ・地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。
<最新のサンプリング実績>
 - ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。
- ・地下水バイパス揚水井 No.12 については、各揚水井の定例モニタリング(5/26 採取)において1,700Bq/Lのトリチウムが検出されたことから、5/27 より一旦くみ上げを停止し、状況を確認。第三者機関によるモニタリングの結果も含め、その後3回*1モニタリングを実施した。
当該揚水井については運用目標値を超えているが、このモニタリング結果をもとに一時貯留タンク側の評価*2を行った結果、運用目標以上とならないことが確認できたことから、6/12 19:20 より当該揚水井のくみ上げを再開。再開後の現場に異常がないことを確認。
当該揚水井のトリチウム濃度が運用目標値を超えているため、傾向の監視強化を継続し一時貯留タンクへの影響がないことを確認していく。

*1: 5/29 採取:1,700Bq/L(当社分析結果)、1,600Bq/L(第三者機関分析結果)

6/2 採取:1,500Bq/L(当社定例モニタリング)

6/5 採取:1,700Bq/L(当社分析結果)、1,600Bq/L(第三者機関分析結果)

*2: これまでの当社分析結果において、揚水井 No.12 のトリチウム濃度が1週間で1,100Bq/L(5/22 採取)から1,700Bq/L(5/29 採取)と600Bq/L上昇(最大上昇率)したことがあり、この実績を考慮し、今後、トリチウム濃度が600Bq/L上昇して、1,700Bq/L(最大値)から2,300Bq/Lになったと仮定しても、一時貯留タンク側でのトリチウム濃度が約230Bq/Lとなり、運用目標(1,500Bq/L)以上にはならないと評価。

[H4, H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連]

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<H6エリア周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[焼却工作建屋の水位・焼却工作建屋サブドレン水の分析結果]

<トピックス>

- ・H26/4/14～ 集中廃棄物処理施設4カ所(プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、サイトバンカ建屋、焼却工作建屋)のうち、3カ所間において、通常使用していない以下の滞留水移送ラインに設置してある仮設ポンプ(4台)が運転中であり、焼却工作建屋地下1階の全域に滞留水が広がっていることが確認されたことから、常設水位計による常時監視ならびに、焼却工作建屋のサブドレン水の分析を強化中。

焼却建屋:6/10 11:01 回収作業が完了。

工作建屋:5/16 10:30 回収作業が完了。

6/12 焼却工作建屋滞留水の回収作業が6/10 に完了したことから、焼却工作建屋のサブドレン水分析については終了する。

<最新のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[1～4号機サブドレン観測井の状況]

- ・今回新たに採取(3/4、3/26、5/15 採取)した建屋山側(N5、N9、N14)および5/20 に採取したN14 のストロンチウム 90 は、N5が3.6Bq/Lで、その他は検出限界値未満であった。

[タービン建屋東側の地下水調査 / 対策工事の実施状況]

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績]

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。